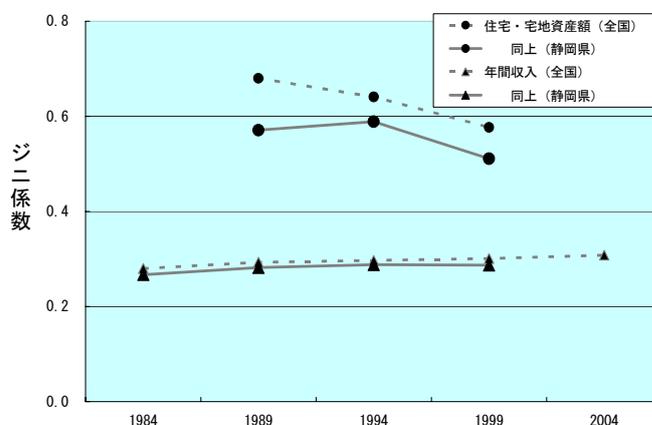


静岡県を「全国値」で見えていませんか？

経済的格差とは・・・年の瀬が近づいても「格差論議」が収まる気配がありません。経済的格差は、政府が平成 18 年 1 月公表の「月例経済報告」で「所得・消費、賃金格差等の統計データからは確認できない、個人生活実感においても格差拡大の意識変化は確認されない、但し若年層の就業・生活形態の変化には将来の格差拡大の要因が含まれ注意が必要」との見解を示しました。報告は各調査によるジニ係数(所得分配の不平等度を表わす指標、数字が大きいほど不平等度が大)や世論調査等の統計データで経済的格差を分析しています。

それで静岡県は？ 県経済統計室の「経済的格差に関する本県数値の確認」(県HP掲載予定)では、①本県は全国とほぼ同じ傾向(右図)、②本県数値のない統計がある、③しかし関連統計を組み合わせることで目的を達成できる場合がある、等が分かりました。私達は、溢れる全国情報を知らないうちに静岡県情報に置き換えていませんか？「静岡県は静岡県データで見る」が基本ですね。

静岡県と全国のジニ係数(全国消費実態調査)



「あの～、初歩的なことですが？」 一第2回統計実務者連絡会議

・「県庁内の統計情報の共有化」が目標の連絡会議。第2回目は10月6日、数ある統計の中でも最も基本となる「国勢調査」、そしてモノづくり静岡県を数字で証明する「工業統計調査」、これらの最新データを担当者から説明してもらいました。国勢調査では昨年10月時点の最新データを知り、工業統計調査ではバブル期を経た工業の変遷を概観、説明後の意見交換では「この際だから聞いちゃおう」という質問も出ました。次回は12月末に開催予定。



統計調査に王道なし！

・静岡県統計功労者表彰式が11月14日(火)静岡市内で開かれ、大内賞を受賞した加藤里代さん(旧清水市)が体験談を披露してくれました。その経験に裏付けられた調査活動のお話は、「統計調査に王道なし」を地でいくものでした。加藤さんに限らず、経験豊富な調査員の方には、自分なりの工夫や努力があります。調査結果が載っている新聞記事の活用、手書きメモで意思疎通、提出を確実にするための封筒利用、調査対象への心遣い等々、共通するのは調査員としての情熱・熱意と強い使命感です。

